

# オプション検査のご案内 CT検査

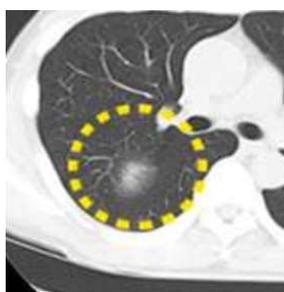


## 低線量CT肺がん検診

通常の胸部CT検査より少ない放射線被ばく線量で受けることができるCT検査です。

肺がんの発見率は  
胸部X線検診に比べて**約10倍**

【こんな方におすすめ】



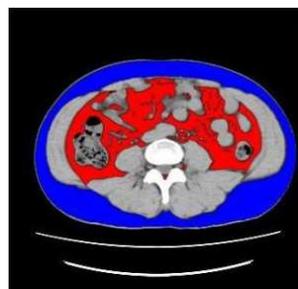
- ・ 40歳以上の方
- ・ 喫煙指数(1日の喫煙本数×喫煙年数)が600以上の方
- ・ 受動喫煙の心配がある方
- ・ 血縁者に肺がんの人がいる方

※ 検診の結果で再検査の指示があった場合、通常線量でのCTを行うことがあります。

## 内臓脂肪面積計測

腹部（おへその断面）をCTで撮像し、コンピュータで内臓脂肪および皮下脂肪の面積を計算します。

内臓脂肪面積が100cm<sup>2</sup>以上であれば、メタボリックシンドロームの危険因子が1つ増えたと評価します。



赤・・・内臓脂肪  
青・・・皮下脂肪

## 腹部CT

腹部の状態を観察します。

おもに肝臓、胆のう、膵臓、腎臓などの病変がわかります。

(内臓脂肪面積計測もあわせて実施します)

※ 腹部CT・頭部CTは通常診療で使用する被ばく線量で検査をおこないます。

## 頭部CT

頭部の状態を観察します。

脳出血、脳梗塞、脳腫瘍などの病変がわかります。

検査料金	低線量CT肺がん検診	11,000円
	内臓脂肪面積計測	3,300円
	腹部CT（内臓脂肪面積計測つき）	11,000円
	頭部CT	11,000円
	低線量CT肺がん検診 + 内臓脂肪面積計測	13,000円
	低線量CT肺がん検診 + 腹部CT（内臓脂肪面積計測つき）	15,000円

(価格は税込です)

- ・ 検査時間は3～5分程度です。
- ・ 妊娠中、または妊娠している可能性のある方はお受けできません。

## 低線量CT肺がん検診について

### 【低線量CT肺がん検診とは】

通常の胸部CT検査より少ない放射線被ばく線量で受けることができるCT検査です。

日本人の死因の第1位は悪性新生物(広義のがん)ですが、その中で肺がん死亡数が第1位と最も多く、年々増加する傾向があります。

早期(転移を来す前の、完治可能な時期)に肺がんを見つけ、適切な治療を行うことが重要です。

肺がん検診における低線量CTでは、放射線被ばく線量を減らすため、通常のCT検査より照射線量を低減させて検査を行います。肺にある陰影の存在の有無は十分に判断可能です。画像の質は通常のCT検査に比べて劣るので、肺以外に存在する異常については、通常線量を用いる検査と比較して見つかりにくい場合があります。つまり、低線量肺がんCT検診は「肺がんを見つけるための検査」とご理解ください。

また、すべての肺がんがこの検診によって発見できるわけではありません。

### 【期待される利益と不利益】

#### 利益

- ・ より小さく、より早い段階で肺がんが発見されることにより、有効な治療を受け、治る可能性が高まります。
- ・ 肺がん以外の呼吸器の病気(肺気腫、肺炎、気管支拡張症、抗酸菌感染症など)や、肺以外の病気(心臓や血管の動脈硬化、乳腺腫瘍など)が見つかる場合もあります。

#### 不利益

- ・ 低線量とはいえ、放射線被ばくをします。この検査による被ばくによって将来がんが発症する恐れは非常に低いと考えられます。
- ・ この検査で異常な陰影が見つかった場合には、詳細な精密検査や、長期にわたる定期的な経過観察が必要となる場合があります。

### 【検診で異常陰影を指摘された場合】

上記にもありますが、低線量CT肺がん検診では、肺にある陰影の存在の有無は十分に判断可能ですが、画像の質は通常のCT検査に比べて劣ります(画像が粗く、微細な構造を表すことに劣る)。

そのため、異常陰影を指摘された場合には、通常のCTで精密な検査を要することがあります。

### 【注意】

- ・ 妊娠中、または妊娠している可能性のある方はお受けできません。
- ・ ペースメーカー、植え込み型除細動器(ICD)等を挿入されている場合は機器の影響で画像化できる範囲が限られる場合があります。